

令和3年度

歴史講座 報告録



令和3年12月に市保健文化センター3階ホールでマスク着用や手指消毒の徹底等の新型コロナウイルス対策を講じたうえで「歴史講座」を開催いたしました。両日とも多くの参加者から「面白かった」との声をいただきました。

本紙では、ご参加いただけなかった方にも当日の雰囲気や少しでも味わっていただけるよう、講座の様子を簡単にご紹介いたします。

作成者：大網白里市図書室

作成日：令和4年1月14日（金）



第1部

稲葉黙齋と上総道学

「大網白里の門人たちを中心として」

郷土の歴史は面白い



黙齋は、天明元年（一七八一）

父・迂斎の弟子で上総八子の一

人である鶴澤幸七郎を頼り本市

清名幸谷に来住し、以後、寛政

十一年（一七九九）に没するま

での十八年間、当地を拠点に先学の著書をまとめつつ門

弟たちの教育に尽力しました。黙齋の教えは、上総道学

と呼ばれる「実践的な道徳的人間学」でした。教え子の

中には上野国館林藩や讃岐国丸亀藩などに藩儒として登

用されるほど出世した者もいたそうです。

講義では「稲葉迂斎に学んだ上総国の八人の弟子たち

が、各々の地元で道学を講じた時期」「黙齋が清名幸谷

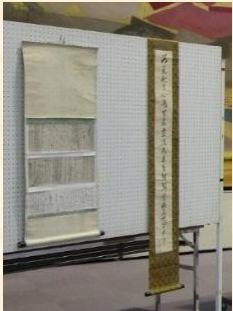
を拠点に活躍した時期」「黙齋没後」の3つの時期につ

いて、系譜図を用いた資料や古文書や掛け軸等の史料を

参考に、それぞれの時期の主要な出来事等を丁寧に解説

していただきました。また質疑応答の時間も大変盛り上

がるなど活気溢れる講義でした。鶴澤先生ありがとうございました。



貴重な史料を展示していただきました！



（稲葉黙齋先生肖像）

（学舎「孤松庵」跡）



2021.12.11

講師：鶴澤 良臣 先生
（市郷土史研究会副会長）

第2部

特別史跡加曾利貝塚

「雑学として貝塚を学ぼう」

雑学で楽しく学ぶ



加曾利貝塚が開発等で破

壊されることなく現在まで

残っているのは、当地が宅

地造成の危機にあった昭和

30年代に「遺跡を守りた

い」と強く思い行動した市民主導の遺跡保存活動が背

景にあるそうです。国宝級の遺跡として国から特別史

跡に指定される程の重要な貝塚が消滅していたかもし

れなかったとは……。他にも「縄文時代に約2,000

年間使用されていたムラであること」「明治時代、日

本人のルーツを明らかにする研究を行うため貝塚から

古人骨を発掘してたこと」「全国に約2,400ヶ所

ある縄文時代の貝塚のうち約120ヶ所が千葉市内に

あること」など加曾利貝塚を中心に考古学初級者も楽

しく学べるよう雑学を交えながら様々な事を教えてい

いただきました。長原先生ありがとうございました。

復元された縄文時代の家

受講者には加曾利貝塚博物館のリーフレットが配布されました。眺めていると現地に行ってみたくなりますね♪



加曾利貝塚縄文遺跡公園内には、整備された木々だけでなく復元された堅牢な住居もあり、縄文時代の景観を楽しむことができます。



2021.12.19

講師：長原 亘 先生
（千葉市加曾利貝塚博物館職員）

加曾利貝塚調査の成果

住居跡	約140軒
土坑	約166基
石器・石製品	約1,800点
土製品	約1,300点
骨角歯牙製品	約340点
貝製品	約530点
他にも、人骨・犬骨などが発掘されています。	

（講座資料参考）

【発掘調査だけが仕事じゃない！】

加曾利貝塚では、多くの遺物や遺溝が確認されています。しかし、調査を実施したのは遺跡全体の約8%ほどだそうです。「えっ！たったの8%？」と思うかもしれませんが、出土品等は空気に触れた瞬間から劣化が始まるため考古学の世界では遺跡をやたらに発掘調査することはせずに“現状維持”が大原則だとか。「発掘＝破壊」とならないよう、今よりも保存の技術等が発達した後世の人々のために良好な状態で遺跡を残すことも非常に重要な仕事なのです。

編集後記

今年（壬寅）は干支で言うところの壬寅（みづのえ・とら）になります。厳しい冬を越えて春の草木が芽吹く年との意味があるそうです。まさに日頃の努力が実る飛躍の年と言ったところでしょうか。未だ新型コロナウイルスに悩まされる日々が続きますが、今年こそは感染症対策の効果が実り平穏な日常を取り戻したいです。

（職員A）